

WS-1 アクティブラーニング四方山話

—どうやってアクティブにするのか—

石川さと子¹、菅沼太陽²、清水 忠³

¹慶應義塾大学薬学部、²東京女子医科大学、³兵庫医療大学薬学部

2012年、文部科学省中央教育審議会の答申に「アクティブラーニング」という用語が登場しました¹⁾。薬学部では、すでに2006年からの6年制カリキュラムにおいて倫理観や問題解決能力の醸成を目指し、ヒューマニティ教育を中心にグループ学習が導入されてきましたので、学生が主体的に参加する学習方法は特別なものではないかもしれません。しかし、グループ学習以外の学習方法や、その評価についてはどうでしょう。アクティブラーニングにおいて、学生は本当にアクティブに学習しているのでしょうか。そして、教員はそれをどのように観察しているのでしょうか。教員が疲れるだけで効果が見えないアクティブラーニングになっていませんか？

今回のワークショップでは、これからの学部教育、生涯教育の重要なキーワードになる「アクティブラーニング」をテーマにして情報交換したいと思います。当日はまず、医学教育でe-ラーニングやPBLの実施にあたっての苦労話や評価に関する話題を提供します(菅沼)。また、薬学部3年次の薬学英语における演習形式の変遷、アクティブラーニング導入にあたっての苦労話や学習方式ごとの効果について(清水)、そして学習支援システムやクリッカーなど様々なツールを利用した授業事例について(石川)お話しします。その後、薬学教育における「アクティブラーニング」をどうやってアクティブにできるか、参加者同士で話の花を咲かせましょう。

第1回大会ではWorld Caféという学習方法を体験するワークショップを開催し、教員、薬剤師、学生が同じ立場で楽しんでいただきました。今回のワークショップは、アクティブラーニングを実施している、試行錯誤している、興味はあるけど、なかなか実践の機会がない、そもそもアクティブラーニングってどのような学習なのかわからない...そんな方もぜひ参加してください。遠慮なく質問して疑問を解消したり、新しい何かを理解するきっかけになる...このワークショップが参加者にとってのアクティブラーニング体験になることを願っています。

1) 文部科学省中央教育審議会, 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申), 2012年8月28日。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm

略 歴

石川さと子：共立薬科大学卒業後、大学院にて有機薬化学を専攻。有機薬化学講座助手、基礎薬学講座講師、慶應義塾大学専任講師を経て、現在 薬学教育研究センター准教授。薬学教育協議会ヒューマニティ関連教科担当教員会議委員長。日本薬学会薬学教育委員会委員。日本薬学教育学会広報担当。担当授業：情報・コミュニケーション論、多職種連携体験学習、日本薬局方など。著書：「生命科学・医療系のための情報リテラシー第2版」丸善出版、「スタンダード薬学シリーズII 薬学総論I」東京化学同人(編著)。

菅沼太陽：日本大学薬学部卒業後、大学院にて薬剤学を専攻。東京女子医科大学医学部薬理学教室、同生化学教室を経て、現在 医学教育学教室助教。日本医学教育学会広報・情報基盤委員会委員。医学教育ではPBLテュートリアルで獲得する能力因子、臨床推論能力のTBLによる獲得、自己主導型学習による学習効果などを研究し、現在は薬剤師のコミュニケーション・トレーニングプログラムの開発に取り組んでいる。

清水 忠：東京工業大学理学部卒業後、北海道大学大学院修了。東北大学機関研究員、理化学研究所(学振特別研究員)、兵庫医療大学薬学部助手、助教を経て、現在 創薬化学研究室講師。2017年より兵庫医療大学教育支援室・学習支援部門長を兼任。担当授業：基礎有機化学、新・薬学入門2、薬学英语(EBMの実践)、医薬品化学など。初年次教育、学習支援方略の開発、薬剤師・薬学生に対するアクティブラーニング形式の構造式&EBMの学習プログラムの開発を行っている。